

難波市民学習センターで毎月開催中の 「駅前映画会」にOMC参加本決まり 3月27日(月曜)3時30分より開会

従来、難波市民学習センターが主催して毎月第4月曜午後開催している「駅前映画会」に、当大阪ムービーサークルが単独で参加することが決まりました。120名定員の講堂が無料で使用でき、学習センター側も独自の広報宣伝で一般に呼びかけられるので、盛会が期待されます。期待を裏切らないよう、わがクラブとしても気持ちを込めて取り組んでまいります。

◎メインテーマ:大阪の昭和と「いま」

映画会の企画のテーマとして、上記のような大阪の昭和と「いま」を伝える作品を往年のフィルム映像やVHS、Hi-8作品そしてHDV作品に至る、大阪に限定した作品を厳選してプログラム構成しました。

◎プログラム:①昭和も遠くになりけり(12分 S29年作)松村長治郎、②流通革命(12分 S35年作)野田邦雄、③鶴橋(12分 S44年作)吉村久雄、④通天閣かいわい(14分 S44年作)合原一夫、⑤大阪城の謎(7分 H40年作)渡辺雄史、⑥御堂筋パレード昭和と平成(13分 H3年作)有村博、[休憩]、⑦中之島考想(11分 S53年作)合原一夫、⑧南海天王寺線廃線の日(10分 H5年作)柴辻英一、⑨静かなるマドンナたちの集い(5分 H12年作)関剛、⑩万灯供養(6分 H16年作)江村一郎、⑪道頓堀開削400年目の記録(14分 H27年作)進藤信男、⑫銀杏の道(9分 H27年作)関剛 以上12作品

■第36回日本を縦断する映像発表会は3月11日(土曜日)

今年の課題コンのテーマは「語」と決まりました

毎年宮中で行われる歌会始め来年度の課題が「語」だそうです。従ってOMC課題コンとして「語」の入った題の作品を作ってください。5月第2例会でコンテストを行います。「○○物語」「○○は語る」「語部」等々。

2月例会のお知らせ

2月は第2例会はありません。通常例会は第4土曜25日午後6時より難波市民学習センターにて開催します。撮影会参加希望者は今月例会日に受付開始します。(ホテル部屋確保のため早めに人数確定したい)。二次会も楽しい例会にどうぞお越しください。

■OMC 29年度撮影会

今年の撮影会概略は昨年からお知らせしていましたが、岡本幹事から次のように発表されました。

日時:5月13日(土)~14日(日)

撮影地:①湯浅醤油の町周辺

②有田得生寺の「中将姫来迎式」

集合:JR 湯浅駅(11:30)、JR 天王寺駅発(9:48)紀州路快速→和歌山駅で10:48発御坊行普通列車に乗るのが運賃も安い。

宿泊:有田川温泉 鮎茶屋0737-88-5501

参加費:16,000円

- ・参加希望者は2月例会に申し込み
- ・続報は4月例会でお知らせします。
- ・公開審査は7月第2例会(7月13日(木))午後1時より。詳細は1月例会で配布した実施要綱案の通り。

ネット版に実施要項全文を載せています。

■丹波篠山ビデオ大賞発表会を見学して感じたこと

去る2月5日(日)に開催された丹波篠山ビデオ大賞入賞作品発表会を見学してきました。今回は大阪、京都、奈良地区の入賞者はありませんが、作品勉強のために見学してきました。ビデオ大賞部門は昨年通り7本でした。作品紹介は近々「丹波篠山ビデオ大賞」のホームページで公表されるので、そちらを見て頂くとして一番のポイントは今年の応募本数が40本と少なかったことです。確か昨年が53本、一昨年が50本だったと記憶しています。

全国で自治体が主催して行っているアマチュアコンテストはここだけだと思います。それだけに応募本数の減少は税金で成り立っている主催者の意欲を削ぐのではないか。主催者が今後もコンテスト開催を続けていくには、せめて50本以上の応募を期待しているのではないかと考えさせられました。本年度(平成29年第29回)が、もし40本を下回るようなことがあれば、来年度(第30回)の節目で中止されはしないか等々いらぬ心配をしてしまいました。

幸い丹波篠山ビデオコンへは地の利があるので、東京系より有利ではないでしょうか。まさかの中止という事態を避けるためには

応募本数の増加しかありません。お役人である主催者にとって応募総数の多寡が一番の気掛りだと思っています。それによって主催者もやる気を失わないででしょう。私たちアマチュアビデオファンが丹波篠山ビデオコンテストを盛り立てていきましょう。

文責 前田

1月通常例会レポート

初の通常例会は、夜の宴会のために午後1時からの変則時間で行われました。いつもと違う時間なので場所とりの抽選会では希望の第4研修室が確保できず、第2研修室となりましたが、部屋の形が違うので使い勝手が悪かったようです。土曜の昼間の例会というのに会場一杯の30名の出席と14本の作品上映、その上に総会があったので時間一杯、充実した新年度開幕の例会となりました。会長の新年挨拶の後、司会、森口氏、書記、河合氏、メモリ記録、江村氏、映写、稲田、坪井両氏、受付、宮崎、華岡両氏、掲示、紙本氏の担当で進行。

■出席者:有村、稲田、井上、江村、岩井、岡本、紙本、河合、河口、合原、柴辻、関、進藤、高瀬、坪井、野田、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、吉岡、山城、西條、弓取、中村の28氏に見学者2名の合計30名の出席者と作品14本。

■上映作品(今月の講評は河合世話役)

1. 除夜(BD)

前田 茂夫 5分50秒

画面一杯に夜のお堂が映し出され、タイトルの「除夜」、テロップの「平成28年作」が現れます。参詣する善男善女、一山の僧侶に依る読経と画面は転換します。

この寺では誰もが除夜の鐘を撞くことが出来るようです。鐘は108回を超えて、煩惱を祓うかのように響いています。そして、順番を待つ人々の数はますます増えているかのようです。たった6分足らずの映像で、ノンナレ、僅かのテロップだけで、新しい年を迎える日本人の古くからの風俗を、隈なく描いた名品だと感心しました。「平野

の(融通念仏宗大本山)大念仏寺」とテロップが最後に出て来たのも、シャレていると思いました。

2. 歳晩の万博公園(BD)

紙本 勝 10分00秒

「歳晩」は「1年の終わりの頃」の意味。画面は着膨れて遊ぶ元気な子供達から、公園のシンボル太陽の塔へと展開します。

「塔の凸凹を予め3D データー化」して、その表面に立体的な映像を映すイベントが、評判になっているそうですね。両腕が寄せられて来て「合掌」に。猛獣の牙に襲われるところの映像には、流石の岡本太郎も吃驚したことでしょう。それにしても、太陽の塔のイルミネーションが65%を占める作品構成は、矢張り長過ぎないでしょうか。

3. 大阪の陣跡を訪ねる(BD)

有村 博 12分18分

NHK の大河ドラマ「真田丸」に協賛して(?)、戦いの跡を映像に納め、紹介されました。場所は、大阪城から出発して大阪市内6ヶ所、東大阪など4市、再び大阪に戻って平野、天王寺を経て再び大阪城で END。

何日も掛けて歩かれた距離は膨大なものだったでしょう。ご苦労様でした。

4. 大阪中之島公園(DVD)

西條 伸樹 3分00秒

中之島公園のバラ園は、川と高層ビルに交差するコンクリート作りの高速道路に囲まれた、都市空間の中で栽培され、都市美と自然美がバランスのとれた構成で、小さい乍ら、世界では評価の高い公園です。

作者は、今回この公園を秋花が咲くバラ園を中心に取材されました。大変綺麗な映像で、丁寧な撮影振りが伺えます。

中之島公園にはバラ園だけでなく、図書館、公会堂、美術館などユニークな建造物があり、イベントも多彩ですから、今後の展開を期待しています。

ただ、傾いた幾つかのカットは、特別な意図がなければ、避けた方がよいでしょう。

5. アルプスの峰々と国境越え(BD)

弓取 克弘 7分00秒

私は二度、スイスを訪れていますが、憧れのアルプスとは無縁でした。何時かはアルプスへとこの思は、寄る年並に諦めの心境でした。それが一挙に「ロープウェイによるアルプス越え」とは。窓ガラスの汚れはあるものの、映し出されるアルプスの映像は素晴らしいものでした。

ただテロップのことは気になります。数が多く長過ぎます。これでは観客は素晴らしい映像に集中出来ません。テロップの長さは「一瞬で読み取れる」範囲が望ましいでしょう。ビデオでは「映像をして語らしめる」ことが基本です。

見せて頂いた作品はこれに充分値する映像だと思います。思い切って、テロップは有名な山の名前位にして、あとは貴方の映像に語らすような編集に変えられたら、観衆の感動はもっと大きくなるでしょう。

6. はだか祭

進藤 信男 13分45分

丹波市青垣町の裸祭を取材されました。丹羽市は阪神間から車で1時間余り、1時間ごとに走る JR 福知山線の特急が止まる駅が市内に二つあるという、比較都会に近い山間の町です。

白いパンツ一丁の裸で、舞堂から本堂へ駆け上がって7回半廻る。更に神宝奉還の神事後更に3回と、徹底して駆け上がります。裸で詣るのは「同じ目線で神様の前に行く」ということらしく、結構年配者も若者と同じスピードで走っているのには感心します。肌を触れ合う単純な所作の繰り返しの中で、彼らの団結心が培われて行くのでしょう。

7. 八坂の塔 冬日(BD)

高瀬 辰雄 6分30秒

見覚えのある露地と塔から、映像は始まりました。京都観光のシンボルと言われる八坂の塔です。この辺りはかつて静かな通りでした。今では観光の名所になって、人通りが絶えない町になってしまいました。

突如天候が急変して雪が。人通りもまばらになって静かな京都が戻ってきます。

雪は止んで薄日が洩れ、空は夕陽から夕焼けに。町は本来の静けさが戻って来たようです。作者のほっとした顔が眼に浮かびます。

8. 迎春風景(BD)

宮崎 紀代子 6分30秒

報恩寺の除夜の鐘、明けて狭山神社の初詣風景、大変な人出ですね、そして寺内町以来の古い町並みを辿ると、「五軒家えびす」に行き着くようです。村人達の手で十日えびすが賑わっています。

富田林の町は訪れたことはありませんが、地図を広げながら作者の迎春風景を楽しく辿りました。南河内の人々の素朴な佇まいが、心に沁みる作品でした。

9. 廃線紀行 大阪臨港線

江村 一郎 8分5秒

昭和のはじめころ、今の環状線の境川信号所から大阪港駅までJRの線路が伸びていました。大阪港駅から関西線百済駅や城東貨物線を経由して吹田信号所まで貨物列車走っていたそうです。

建設、発展、衰退、そして再開発による近代化と、その栄枯盛衰は目まぐるしい。或は近代大阪経済史の裏面を物語っていると言えるでしょう。

江村さんは、大阪の近代史の全貌を裏面から追って我々に迫って来ているのだと思いました。

10. カヴァルニー圏谷

華岡 汪 8分31分

今回はフランスとスペイン国境にまたがるピレネー山脈、そのフランス側のカヴァルニー圏谷(ユーゴーが「岩の円形劇場」と呼んだ)の旅です。登山口のカヴァルニー村まではバスで運ばれ、あとは川筋に沿ってこの大溪谷を眺めながら歩きます。

途中「山道へ」へのテロップが出るが、ハイキング道路に見えます。広場で休憩。人々は3000メートルを超える大溪谷の景観を楽しんでいます。極め付きは落差400メートルを超える大滝展望台です。圧倒されました。それがハイキングで見られるとは。世界は広いとつくづく感じました。

11. 長男家族がやって来た

山本正夢 10分10秒

海外で観光業を営む長男一家4人が、年末・正月の3週間、日本を訪れられた時のホームムービのようです。閑空に一家を迎えた作者は、早速、春日神社や東大寺、奈良公園と古い日本を案内しますが、お孫さん達は天衣無縫に飛び回って大喜びです。ご家庭ではクリスマス・パーティ、孫さんの誕生日のお祝いとイベントが続きます。今度は夜の神戸港や海遊館と近代都市の楽しみです。年末の餅つき風景、神戸に住んでいる次男夫妻も駆けつけて来て忘年会。極め付きは、全員和服の正装で記念写真。参りました。ビデオはこのままで、観光業を営まれるご子息へ、「日本への旅のプロモーションビデオ」として提供されては。

12. 富来(とぎ)八朔祭・本宮

河合源七郎 11分51秒

先月の例会で上映した富来八朔祭・宵宮の続編で、どうしてコンパクトに纏めるかが課題でした。しかしまだまだ不十分のようです。

何れ改めて「全編」を作り、皆様のご批判を仰ぎたいと思っています。

13. 池田えびす

吉岡 貞夫 8分55秒

日本の何処にでもある「恵比寿神社」。しかし「エビスのカミ」とは様々な説があるようです。総本社と称する西宮恵比寿神社では「常世の國から漂着されたヒルコ」説の様ですが、イザナギ命とイザナミ命の第一子とする古事記説、事代主命を恵比寿様として漁業・航海・商売のカミとする説など。

作者が取材されたのは池田市の「呉服神社」で、祭神は中国呉の國からの渡来神で、「織姫・呉服姫(くれはとりの媛)」という織物の神様です。馴染みのない神様ですから、作者も詳しくコメントされています。

神様が変わっても、お祭り風景は変わりないようです。

14. デジカメでサイクリング

芝辻 英一 9分

作者は、新しく買ったデジカメを首から吊り(?)下げて、自転車で、堺の町へ。

最近のデジカメの進歩は素晴らしい。

しかし、デジカメの撮影素子は非常に小さいのでレンズの焦点距離はみんな短い。必然的に焦点深度は深くなり、一番手前の物が大きく写り、背景は印象が薄くなります。今回の場合では自転車のハンドルがそれです。蘇鉄山の映像と比べて下さい。ですから、カメラの位置を高くするなど工夫をして、様々の撮影アングルがとれれば、面白い作品が出来るかと思いました。

1月第2例会レポート

今年初の第2例会は通常例会に先立ち、19日(木)13時より開催、寒い中、17名のご熱心な会員諸氏が集合し、8本の作品と5本の参考作品で楽しいひと時を過ごしました。今月の司会は合原会長、書記は紙本氏、記録江村氏、映写河合氏、受付森下、紙本の両氏の担当で進行。

■出席者:有村、稲田、植村、江村、蟹江、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、華岡、宮崎、森下、森田、山本の17氏。

上映作品(今月の講評は紙本世話役です)

1. 走馬灯昭和から平成へ30年(BD)

有村 博 6分37秒

昭和39年のオリンピックをトップに大きな出来事が走馬灯の様に移り変わります。その映像はと言うと、なんと収集されたと思われる記念切手や硬貨が利用されています。そして年賀切手を挟んで年次が刻まれ、大阪万博等々凡そ25件が次々に展開します。最後は平成6年の関西空港の開港で幕ですが、切手や硬貨を介した走馬灯の発想には感心します。それぞれの時代を懐かしく拝見しましたが出来事に思い出話でも重なれば更に良い作品になったのではと言う意見も聞かれました。近頃は時代に合わせてか切手のデザインも様変わりの様です。

2. 静かなるエロスの宴(BD)

関 剛 4分50秒

堅ぐるしいものではなく、少し砕けて、と言うご本人の前置きで、女性の彫像が、特徴のある音楽と共に、アップアップで、次々と描写されて行きます。女体の曲線の美しさに、つい見とれてしまいます。まさにエロスと言うところでしょうか。そして、静かな彫像も連続すると段々に動きを感じる様になって来ます。これが宴なのでしょう。

おしまいのカットが激しい噴水の流れて一転現実に戻った様な感じになりました。靱公園での撮影会の、流石は関さんらしいトップ作品との事で、楽しく拝見しました。

3. 久宝寺燈路まつり(BD)

江村一郎 6分50秒

久宝寺は八尾市に有る地名で、現存していないが、聖徳太子が創建した久宝寺という寺が地名の由来とか。その跡に蓮如上人が創建した西証寺が顕証寺に改められたとかでこの寺の境内や付近の道路に、初秋の9月紙づくりの灯籠が並べられて幻想的な夜が繰り広げられています。本堂では供養が行われ舞楽が奉納されています。町中の白壁にはスライドショーや、ライブ、出店神社では神楽と大いに盛り上がりを見せています。道路に並ぶ灯籠など作品になりいく所を江村さん流でアップ、ロンを駆使してまつりの雰囲気を醸し出している様に見受けました。町の人々も夜の明かりを十分に楽しんだことでしょう。

4. ポンタのお宝探し(BD)

高瀬辰雄 5分20秒

狸のポンタが地面を掘ってお宝探しです。続いて、京都市の左京区にあった藤原良相の邸宅百花亭の発掘調査の現場に移りますこの調査ではかな文字入りの土器が多数出土した様です。この発掘作業を見学していたのがポンタ君です。百花亭から200m程の家に帰ったポンタは此処掘れワンワンではないが発掘を始めます。といっても大判小判がザックザクとはならず発掘を続けているうちに、その甲斐があつて遂に出ま

した、白い小さな磁器製の壺が6個も見つかったのです。はてさてどれ程の価値のある物か全く分からない、で映像は終わります。ポンタ君00テレビのなんでも鑑定団で鑑定をしてもらったらとんでもないお宝かもしれませぬよ。

5. 謹賀新年(BD)

柴辻英一 5分00秒

まずは年頭の挨拶に始まります。続いて昭和60年に8ミリ仲間の新年会がご本人のお宅で催されたという懐かしの映像に移ります。今でも若い合原さんの熱唱です。やがて今は亡き吉田フミオさんが踊りだします。菊池さん・川端さん・森さんそれに吉岡さんのお顔も見えて囃子が入り唄が更に弾んで、場が大いに盛り上がる雰囲気伝わってきます。懐かしく楽しく拝見しましたが、矢張り映像は貴重なものであることを感じました。

6. イビザの塩と料理(BD)

山本正夢 6分20秒

スペイン領のイビザ島は島全体が世界遺産に登録された風光明媚な観光地の様です。ローマ時代の昔から麻と塩の産地とかで、塩田の近くに塩が山のように積み上げられているのに驚きですが、この塩をショベルカーで掬いあげてダンプカーに積み込みます。豪快な様で積み出し港まで運びヨーロッパ方面に送られるそうです。そして、料理です。ロブスター、アサリ、鶏肉、ウサギの肉を揃えて男の料理が始まります。女性たちは見物役、段々に旨そうな、スペインを代表する料理パエリアが出来上がり、みんな揃って食卓を囲んでご満悦のようでした。いつもの事ながら珍しい映像をみせて貰いました。

7. 通天閣かいわい(DVD) アーカイブス

合原一夫 12分00秒

1970年の作品様ですが、故人吉田フミオさんのちょっと真似のできない大阪弁のナレーションで庶民の街、通天閣界隈を紹介されています。沢山の映画館などが並んだ一大娯楽街だった様子も40年も経つと矢張り変化を見せているようです。通天

閣というと王将、坂田三吉の登場です。ここでも吉田さん、菊池さん、柴谷さんなど往年の役者さんが板についた演技を見せてくれます。昔というほど前ではありませんがこの映像を拝見すると、矢張り楽しくて良き時代であったと思われませぬ。

8. 古道幻影(BD) アーカイブス

関 剛 12分00秒

深い森に囲まれた熊野の地はもろもろの神のおわす国、昔から皇族をはじめ庶民の信仰を集め、蟻の熊野詣でと言われましたが、今では絵巻行列などがあって観光化されている感があります。

古道を歩く一人旅の女性が、平安時代の衣装を着た女性を発見、珍しさのあまり後を追うと、現れたり消えたり、夢、幻かと更に後を追うと歌を書いた短冊が残されていました。さらに執拗に古道の林などを追うと、笠と衣装と歌が残されていました。その影は一体何だったのか 昔から人々は過去の業を清め滅罪と甦りを熊野権現に求めて来たのです。旅の女性も信仰の御利益は直ぐに得られるもでもないことを悟りながら一念発起してか(私なりの解釈)残された衣装を身に纏い、信仰の道、熊野古道を歩き始めて遠ざかる姿がありました。平成11年の撮影とか 熊野信仰にふさわしい企画と作品で色々と考えながら拝見させて頂きました。

参考作品、

1. 夢ある家族 6:00 谷川保蔵
2. 風韻 12:00 辻 孝平
3. TOKYO 恋々 6:00 宿谷昭之助
4. 島の響 15:00 藤原純三
5. 啓太のふるさと 7:00 古滝雅之

